



2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただき、24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます。(※紹介順は届け出順です)

岩谷民泊協会 (岩谷/泉地区)



会長 山本 庸祐

2003年に開催された国体に、銃剣道の選手として出場した経験を持つ山本会長。国体出場者として、少しでも役に立ちたいという思いを抱いた山本会長は、各家庭を回り、協力依頼をしました。住民たちは山本会長のその熱い思いに応え、民泊協会の立ち上げが決まりました。

山本会長はスポーツが大好き。中でも23歳の頃から続けているラグビーでは、全国各地で行われている大会に出場しています。「少しはプレイする側に立ったおもてなしができるかな」と、嬉しそうに語っていました。

「岩谷地区は人数が少ないけれど、それを感じさせない出迎えをしたい。そして、岩谷地区の住民にとって、この民泊での体験や交流が、生活の刺激になるといいな」と、語る山本会長。「難しく考えていても前には進まないし、まずはやってみないとわからない。中には、思い通りにいかないこともあるかもしれないけれど、前向きに1つ1つクリアしていく」と、スポーツマンらしく、不安を感じさせない強い気持ちを持っていました。

新町民泊協会 (新町/近永地区)



会長 竹本 精作

現在、90戸ある新町区。昔と比べ今は、町内や区内での交流があまりないため、このままでは新町区がつぶれてしまうのではないかと悩んでいた頃飛び込んできた民泊協会立ち上げの話。このチャンスを活かし、昔のような新町区の地域連携を復活させようということで、竹本会長は民泊協会の立ち上げを決心しました。

「人は1つの目標があれば自然と集まり、協力できる。この民泊協会に携わることによって、顔見知りも増え、一人一人の才能を見出すことができているよ」と、嬉しそうに語る竹本会長。そんな竹本会長は現在、選手たちが軽いウォーミングアップやトレーニングができるよう、自宅の庭の芝生の手入れを行っているそう。「早く選手たちの純心なプレイ姿と、笑顔を見たい」と、選手たちが芝生へ足を踏み入れる日を、待ち望んでいました。

「選手たちを心身ともにサポートできるよう、「新町チーム」として、一致団結して出迎いたい。そして、みんなで達成感を味わいたい」と、意気込んでいました。